

コラム・GO! GO! エレクトリシャン No.32

※(旧 DENKOU-SAN いらっしゃい!)

東京タワー完成以前に日本一の高さを誇った放送塔 NHK 川口ラジオ放送鉄塔のこと、知っていますか？

本紙先週号の『編集部座談会』でも触れていたが、1961(昭和36)年から続くNHK(Eテレ)の長寿番組『みんなのうた』の2019年10月～11月分の放送枠で『鉄塔(作詞・作曲・歌/南壽あさ子)』という曲が流され、鉄塔・電線ファンに反響を呼んでいる。

この『鉄塔』の歌を聴いて刺激され(笑)、以前から「見に行きたい!」と念じていたのだけれど、なかなか見に行く機会のなかった《NHK 川口ラジオ放送鉄塔跡(以下、川口ラジオ放送鉄塔・川口ラジオ放送鉄塔跡)》を、ようやく訪ねることができた(写真参照)。

筆者はその存在を数年前に知ったばかりの新参者だが、《川口ラジオ放送鉄塔跡》には伝説や逸話とともにマニア的なファンが多い。川口ラジオ放送鉄塔が埼玉県川口市に建設されたのは1937(昭和12)年、撤去・解体されたのは1984(昭和59)年。関東一円のラジオ放送をカバーしていた川口ラジオ放送鉄塔(正式名称は川口ラジオ第一放送所)は、なにしろ高さ312mもの構造物。それが北塔・南塔と2基並んでいた。

1958(昭和33)年に高度経済成長時代のシンボルともいえる東京タワー(333m)が建設されるまで、川口ラジオ放送鉄塔は日本一の高さを誇る建設物でもあった。放送鉄塔のみのシンプルな構造のため、東京タワーのようなビルディング構造も含む巨大建設物とはスケールが違うものの、鉄塔だけで300m超というのは逆に凄味を感じられる。往時の写真を見るとペンシルロケットみたいな感じの形状だ。

鉄塔本体は前述のように1984年に解体されている

が、問題は鉄塔を支えていた土台が今も残っているのか否か、だった(ネットではずいぶん前から撤去の噂があったので)。写真を見てお分かりのように、土台は今もなんとか残されていて、わざわざ川口市の郊外まで出かけた甲斐があった。

しかし驚いたことに、この鉄塔の土台が存続しているのか否かについて、隣接地に建てられているNHKのライブラリー施設《NHKアーカイブス》に出向いて事前に質問したのだが、応対してくれた数人の職員のうち誰一人として、この鉄塔跡についても土台の存続の有無についても答えられなかったことだ。NHKアーカイブスの敷地が元々、川口ラジオ放送所のものであったことを知っている人は一人だけいたが、コンクリート土台がどうなっているかまでは知らないとのこと。

それならばと、今も空き地のままのアーカイブスの隣接地(旧敷地の約半分が、NHKアーカイブスや川口市の博物館施設・スキップシティに活用されている)の周囲を歩き回るうちに、写真の土台を見つけたのだった。それは呆気ないほど簡単に見つかった。しかしあらかじめ「こちらへんに放送鉄塔の土台があったはず」という目で見ない限り、確かにこれらが何のための土台だったのか、そもそもこれが何なのかということさえも、形状が地味過ぎて分かりにくいだろう。

しかし、芭蕉の「夏草や兵どもが夢の跡」の世界のごとく、ここには確かに往年の日本のエレクトリシャン(電気技術者)たちの足跡・爪痕が、夢の跡として遺されている。そのことをしみじみ痛感させられた、楽しいウォーキング取材だった。